

まちづくり提案会

テーマ：「私が描く未来の習志野市」

皆さんは、10年後、20年後、習志野市をどのような「まち」にしたいですか？

私はこういう「まち」にしたい、こういう「まち」だったら住み続けたいといった未来の習志野市について、貴方自身のお考えを提案していただく会です。

	開催日	時 間	場 所	参加人数
第1回	9月1日（土）	午前9時30分～11時30分 （午前9時受付開始）	勤労会館 2階 会議室A, B	13名
第2回	9月1日（土）	午後1時30分～3時30分 （午後1時受付開始）	新習志野市公民館 2階 多目的室	18名
第3回	9月2日（日）	午前10時～12時 （午前9時30分受付開始）	東習志野市 コミュニティセンター 3階 講義室A	8名

次 第

- ・開会の挨拶
- ・提案会の説明
- ・市民意識調査について
- ・市長挨拶
- ・提案会（第1回提案会／第2回提案会／第3回提案会）
- ・総 括

【開会の挨拶】

事務局： おはようございます。それでは、お時間となりましたので、まちづくり提案会を開会致します。

本日の出席者を紹介します。習志野市長の宮本泰介です。副市長の島田行信です。そのほか、企画政策課職員、市民会議委員及びコンサルタント会社職員です。どうぞよろしくお願ひ致します。

それでは、開会にあたりまして、事務局より本日の会の趣旨についてご説明します。

【提案会の説明】

事務局： おはようございます。本日の会の趣旨についてご説明させていただきます。

習志野市では、平成26年度以降のまちづくりをどのように進めていくか、基本構想という計画の策定に取りかかっております。基本構想とは、習志野市の将来をつくっていく、とても大

切な計画です。この計画の策定にあたっては、市民の皆さんに、まちづくりに対する想いをお伺いしながら、進めていくことが重要であると考えています。

市民の皆さんのご提案を頂く場としまして、一つ目として、当会「まちづくり提案会」、二つ目として、もしかしたら皆さんのお手元にも届いたかもしれませんが、6月に1万人を対象として実施致しました「市民意識調査」、三つ目として、無作為抽出で選出致しました、市民18名を委員とする「市民会議」、四つ目として、試案に対するご意見を頂戴する「パブリックコメント」、五つ目として、有識者による審議会、「長期計画審議会での諮問」、最後に市民の皆さんの代表である市議会議員により市議会で審議を頂くといった多様な方法を用いて、多方面からお話を頂き、作成したいと考えています。

本日、この会は、将来の習志野市の姿について、皆さんからのご提案を伺う場の一つとして開催を致しました。皆さんにご提案頂きたいことは、皆さんがこの習志野市をどのようなまちにしたいか、10年後、20年後将来についてのお話をして頂ければと思います。そのため、あそこの道路を直してほしいとか、公園の樹木の剪定をしてほしい等の要望を承る場ではありませんので、ご了承ください。

本日、長時間となりますが、よろしくお願い致します。

事務局： ただいまのご説明の中にもありましたが、市民の皆さんのお考えを頂く一つの方法として本年5月から6月にかけて実施しました「市民意識調査」について、ご報告を兼ね、結果の一部についてご説明します。

【市民意識調査について】

事務局： 市民意識調査について若干ご報告を兼ね、説明をさせていただきます。この調査は先程ご説明しました、基本構想をつくるにあたって、市民の皆さんがどのようなお考えをお持ちであるか、アンケート形式で意識調査をしたものです。規模としては、今までに類を見ない市内20歳以上の市民、1万人に対し調査票を送付致しました。もしかしたら、今日ご参加の皆さんのお手元にも届いていたかもしれません。ご協力下さいましてありがとうございます。

全体の回収は4,113件でした。回収数から見ましたら、回答の信頼度はそれなりに精度が高いものと考えております。それでは主だった回答を紹介致します。

まず、「現在お住まいの場所は住みやすいと感じますか」です。「住みやすい」と「まあ住みやすい」を合わせますと82.5%となります。これはかなり高い率と言っても良いでしょう。逆に言うと、ここで満足せずに、この高い率を維持する、もっと高くしていく努力を続けて行く必要があります。

続いて、「特に重要と思う施策は何ですか」で、一番多く選ばれていたのは「高齢者施策」の66.2%で、2番目が「安全・安心なまちづくりへの施策」の59.6%以降、「都市整備」「子育て支援」と続きます。これは、これから進んでいく高齢化への心配や昨年の中東大震災も記憶に新しいところですが、安心・安全に暮らしていきたいという率直な思いが現れているところかと思えます。

続いて、「各施策についてどのようにお感じですか」です。各施策の満足度を伺ったものになります。数字の羅列ですと、少し分かりにくいかと思しますので、次ページに棒グラフを作ってみました。グラフの左下、高齢者の施策から右に移り、観光振興の施策まで、グラフの左が満足、やや満足の合計、右が不満、やや不満の合計です。例えば、グラフの左から四つ目、健康づくりの施策ですが、満足が不満を大きく上回っております。反対に一番右、観光振興の施策は不満が上回っております。

また、右側に「わからない」との回答を多い順に並べてみました。障がい者施策、市民協働の施策、観光の施策が多くなっています。皆さん、身近に感じられない施策については、そもそも満足度といったところで、行政の行っている施策を実感として感じられない部分が多いといったところかと考えられます。

最後になりますが、「習志野市のイメージ」です。10年後の習志野市にふさわしいイメージ、上位3つです。1番は「安全な」2番目は「豊かな」3番目は「いきいきした」です。

以上、市民意識調査の一部を紹介させて頂きました。これら全編については、報告書がまとまり次第、公民館、図書館、ホームページ等に冊子を配架、掲載致しますので、どうぞ、ご覧頂ければと思います。

以上で、市民意識調査のご報告を終わらせて頂きます。

事務局： 続きまして、習志野市長宮本泰介より、ご挨拶と習志野市のまちづくりへの想いについて述べさせて頂きます。

【市長挨拶】

市長： おはようございます。市長の宮本泰介です。本日は「まちづくり提案会 私が描く未来の習志野市」にご参加を頂きまして誠にありがとうございます。今回、現在策定しております平成26年度を初年度とする次期習志野市基本構想に関わる素案をまとめていく上での重要な要素の一つということで、お集まり頂きました。日頃の年間行事の中で、行政問題学習会やあるいは市政懇談会といった施策を展開し、また、タウンミーティング等で皆さんと話し合いをさせて頂いています。

今回と従来のものとの大きな違いですが、従来はあくまでも質問を頂いて答えるというスタイルでした。しかしながら、16万3千人もいるこの決して小さくはない、この首都圏にある大きな行政を担う中で、質問に対して果たして的確に答えられているかということ、また、皆さんが求めていることは、もっとシンプルで簡単なものなのではないかという二つの観点から、今日は質問に私たちがお答えするのではなく、皆さんが日頃お考え頂いていることを十分に発表して頂き、基本構想に取り入れていきたいという趣旨でこのまちづくり提案会を開催させて頂いたものです。

私の主義主張については、いつもいろいろな所でお話しさせて頂いていますし、皆さんが考えていることにあまり制約を掛けてしまうとイケませんので、若干に留めさせて頂きます。

まず、この基本構想を考える上で、私が今一番これから配慮しなければならないと思っていることは「安全と安心」です。これは意識調査の中に「安全・安心」が上位に来ていることか

らも方向性としては間違っていないかと思います。では安全・安心と言うことが私の中でどのような形で脅かされていくのか、私の思いを若干述べさせていただきます。

まず昨今大変な話題になっている「災害」です。これは地震だけではなくて、風水害あるいは火災ということもあります。あるいは危険な工場というものがあれば、工場の爆発ということもあります。そして、さらには原子力発電所の災害もあります。そういったことから、いかにして安全な情報をきちんと皆さんと共有して、そして安全な対策が組めるか考えなければなりません。

もう一つは、「治安・犯罪」といったところです。これは、昨今急激に IT 化が進み、情報化社会がますます進展しています。その情報化社会の進展と比例するように多様な価値観が生まれ、それに伴う複雑化という現象が起きています。今ここにいる皆さんは、メール機能付携帯電話等をお持ちかと思いますが、今や全世界に自分の情報を送り届けることができる世の中になっています。これ自体、まったく否定するものではありませんが、逆にその情報化社会に関するモラルをしっかりと確立していかなければ、時に誤った情報、あるいはいわゆるポピュリズム（衆愚政治、大衆政治）といった状態になってしまうことも懸念されています。わが国は民主主義です。まさにポピュリズムが民主主義制度の盲点だと言われています。

そういう中で、私は情報化、価値観の多様化によって生ずる混乱、これが犯罪の増加や、治安の悪化、暴力による紛争、そして戦争へと繋がっていくこと、これにも十分留意していかないとならないと思っている一人です。そのため、私が市長になり、タウンミーティング等を通じて皆さんと直接話し合いをさせて頂く機会を設けているところです。皆さんと直接話し合いをさせて頂いて、直接生の声を聞いて交換させて頂くことを実行しています。

この中で、習志野市は、少子高齢化社会の真っ只中ですが、この千葉県内の特に葛南地区においては、高齢化比率は全国平均よりも下回り、生産年齢人口がまだまだ多い地域です。しかしながら、昨今の東日本大震災に起因します原子力発電所の問題もあるかと思いますが、人口の流出が今のところ歯止めがかかっていない状況です。本市においても、先に発表されました県の最新データによると、平成 24 年 1 月から 6 月までの間に 200 人減になっている状況です。

その中で、習志野市がこれから生きる道として、利便性が一つ大きく挙げられると思います。全国的なデータから見ても、利便性において、全国 810 市の中で上位ベスト 10 の中に習志野市は入っています。ちなみに、住みよさに関しては、全国 810 市・特別区中、習志野市は 85 番目という上位であることが東洋経済新聞社の発表に出ています。

この利便性においては、例えば今行っている JR 津田沼駅南口 35 ヘクタールの開発がありますが、建物を建てればすぐに予約が満杯になるという状況があるとのこと。そういった点では極端に言えば、家を建てれば住んで頂ける住みやすい環境というものが揃っているのかと思います。では実際にベッドタウンとして習志野市が栄えてきた中で、ほとんどの方が他県・他市にお勤めの方であると想定した場合、いわゆる住民市民税の源泉は東京や他県他市にお勤めになっている方々の所得から納められているわけです。

つまりその方々は、たいていの場合 1 日のうちのほとんどを習志野市外あるいは千葉県外で過ごされているながらも習志野市に多くの納税をしていただいているのです。

そういった点、習志野市のこれから目指す姿として、より良質なベッドタウンとして運営し

ていくことは外せない大きな観点だと思えます。その中から、市民意識調査の習志野市のイメージの中で上位にこの「安全な」、「豊かな」、「いきいきした」という、とにかく住んでいて快適という言葉が沢山出て、概ね習志野市の行政に対するご評価は頂いているということの中で、ますます住みやすくしてほしいということだと思えます。

これに伴い、少子高齢化の問題等もある中で、様々な施策を展開しなければなりません。そこで皆さんに普段からいろいろと考えていることを自由に発表して頂き、是非私たちに提案して頂きたいと思えます。今日は、前向きな議論をする中で、より習志野市の基本構想を充実させていきたいと思えますので、宜しくお願い致します。

事務局： ありがとうございます。それでは皆さんより 10 年後、20 年後の習志野市についてまちづくりの方向性など、アイデアをご提案頂ければと思えます。

【第1回提案会】

【質疑】

○ 次期基本構想を策定する手順の中で、現状の検証についてどのように行っているのか聞きたいと思います。また、今実施している市民会議のワークショップで、様々な課題について具体的な問題点が抽出されています。その抽出されている問題点を次期基本構想にどのように反映しようと考えているのでしょうか。

→ 基本構想の検証については、現行の基本構想自体がまだ稼働中です。そういう意味では平成13年度から今までの分については行政内部で検証させて頂いています。ただし、具体的に点数評価というところまでは至っていません。それぞれの事業あるいはそれぞれの課題等を含め、各部局で検証したものを既に一部分取りまとめて、庁内の基本構想策定本部会議で市長を含め報告し、その内容についての議論をしているところです。市民会議での検証については、市民会議そのものは、次期基本構想をどうまとめていくかということに軸足をおいています。その意味では、今まで習志野市が歩んできた施策と、施策についての説明は当初にさせて頂いています。しかし、具体的に平成13年度から歩んできた基本構想の検証を市民会議の中で行っているという実態はありません。

次に、市民会議ではワークショップ形式でそれぞれご意見を伺っていますが、これをどう新しい基本構想に活かそうとしているかについてですが、これはご発言の通りのことをしなければいけないという自覚が私たちにもあります。すなわち、問題点だけを拾い上げるのではなくて、それをどう反映させて、どのように解決していくかをこの基本構想の中に盛り込む必要があると思います。ただし、基本構想自体は、やはりまちづくりの大筋を表すものです。そして、基本構想に基づいて基本計画、そして実施計画と進んでいきますので、頂いた課題等については実施計画の中でどの年度に何ができるのか、やはりきちんと精査をしていき、そして市民会議で頂いたご意見は、庁内の策定本部会議でしっかりと議論し、また改めて市民の皆さんにご提示するという手順が必要だと思います。現基本構想期間がまだ約1年半あります。その中で積み残している部分については、しっかりと検証し、策定していくという行為を同時並行で今、進めている実態であることをご理解頂きたいと思います。

【提案】

提案①

○ 今日、ここで話をする準備はまったくしていないのですが、ただこの基本構想について非常に関心がありましたので、一通りのデータは目を通したつもりです。ただ、膨大な資料なのでこれを一市民が全部通じるのは不可能です。基本構想というのは、全習志野市の事業を包括していますから、それら全部に目を通すので行政マンでもよほど優秀な人でないと駄目だろうと思います。ですから、私には限界があって断片的なお話しかできないことをまず理解して頂きたいです。

まず簡単に、こんな話ができると思っていなかったのが、沢山の方もおられ、時間も取れないため、一つひとつ思いついたことを挙げてみようと思います。

まず最初に目についたのは、今の基本構想の将来都市像というところに「市民一人ひとりが夢と輝きを持って自己実現できるまち」と書いてありますが、これを見た瞬間に一体何を言っているのだろ

うと思ったんですね。まず、自己実現という言葉は非常に難しい、まあ心理学者が作った言葉ですけども、実際こういう目的が相応しいのかという疑問を感じました。ですから今回ぐらいは変えて頂きたいなど、もっと単純に私達でも中学生でも分かるような表現にして頂きたいです。それで、思いついたもので一つだけ挙げておきますが、「一人ひとりがお互いを大切にしよう」という風な言葉なら幼稚園生でも分かるだろうという感じがします。

それから、これも本当に断片的な話になりますが、子どもを持っている方には切実な問題、特に貧困層の方には大変な問題ですが、子どもの貧困の無いまちにまずはしてほしい、これは絶対必要だろうと、それから私は高齢者ですが、介護難民の無いまちを目指してもらいたい。それから、経済的貧困で自殺者が出るようなまちは困る。それから、自宅で看取りが出来るまちにしてほしい。それから、結婚しても安心して共働きができる社会・まちにってもらいたい。それから、いじめが無いまちと言いたいのですがそれが難しい。いじめ対応をしっかりして、安心して子どもが学校に行けるまちにってもらいたい。それから、ここはものすごく重要なのですが、生活実態調査を定期的に行い、市政に反映されるまちにってもらいたい。

それで、アンケートはそれなりの意味があると思っていますが、限界がありますね。それから生活実態調査というのもやり始めると大変難しいのですが、今、厚生労働省が出している資料がありまして、「生活と支え合いに関する調査」、昔は社会保障実態調査と言いましたが、それが公表されています。これは行政関係の学者はかなりこのデータを使っていますから、行政の方もご存じだと思いますが、ここで言われている生活実態というのは、日本全国で無作為抽出で 300 地域を指定して、全地域の全戸数ですね、世帯主 20 歳以上全員を対象にして、実際訪問して調査をしています。ですから、これは日本全体の平均として非常に意味がある。そういう実態調査から見ると、驚くべきことがいっぱい書いてあるんですね。この数字の理解が合っているかどうか疑問があるかもしれませんが、「一年以内に食糧が足りなかった経験がある」が 15.6%と信じがたい数字が出てきました。それから「食糧を買えなかった経験がある」が 20.5%とありました。それから「電気・ガス・水道代が払えなかった経験がある」世帯もやはりものすごくある、これは個別にやっていますからいちいちここに挙げる意味がないので、ともかく今の日本は経済的に物凄く急速に悪化していますから、習志野市の実態も良いわけがないです。それで、習志野市は、この県レベルで比較した場合でも、所得を日本平均 100 とした場合に、習志野市は大体 90~95%ぐらいのレベルにきているから、この実態調査からそれほど遠くないのではないかなと私は思いました。ですから、こういう意味で考えるとアンケートは良いのですが、こういう実態調査をやってみる必要があるのではないかと、それで今、市長がご指摘なさったように習志野市の市税というのは大半は外で稼いできた人が税金を払っています。外がそういう悪化をしているのだから、習志野市だけ良いというのはありえないわけですね。ですから、これから世界経済が 20 年 30 年過ぎまで不安定で見通しが立たない時代にあって、基本計画がそれを無視して進めるということは絶対できないと思ったのです。ですから、習志野市の実態調査も必要ですが、日本全体のそういった動き、特に近郊の東京都、千葉県、千葉市は平均では習志野市よりもっと悪いです。そういう意味で考えると、基本計画の構想というのはもう一度、本当に今回はゼロベースで当たって頂きたいと思っています。それで、最後のまとめみたいになりますが、私はこんなまちにしてほしいというのを、今、議論されている市庁舎について公共施設再生の例として申し上げてみたいのですが、長期的に世界的経済が悪化している中で華美・贅沢を排除し、質実・堅実・着実さ・慎ましき・謙虚・

聡明・創造性・公開性・親しみやすさ・親近性などの新時代のシンボルに相応しい機能的で便利な、そして安全性の高い庁舎や公共施設を作っていけるまちにして頂きたい、以上です。

提案②

○ 今の基本構想は良くできていると思います。この基本構想が5つの都市課題と4つの都市像ということで構成されているわけですが、多分私が市民会議の委員になっていたとしても、それぞれ消さないでそのまま継続するのではないかなと、その中の文言は少しずつ変わるのでしょうけれど、ほとんど残したままで新しいものがあまり出てこないのではないかなと思うほど良いものが出来ているのですけれど、まず都市課題について私が提案したいのは、5つの中の3番目に「危機管理体制の充実と成熟期における社会資本の整備」があるのですが、これを先程の市長や事務局の話の中にも東日本大震災が出たのですが、これを1つにしないで2つに分けて、一つ目は「都市型災害の危機管理体制の充実」という課題にして、昨年度の東日本大震災の経験を生かした危機管理体制をもっと充実させるということを明確にしては如何かと思います。それから社会資本の整備というのは、先程市庁舎の話が出ましたが、私も同じ思いで、今から公共施設の更新、老朽化対策というのは非常に大きな課題だと思いますので、「厳しい財政事情と公共施設の更新あるいは再生」という課題を設けて、今現在、新市庁舎の基本構想が別の組織で検討されていますけれども、本来であればこの基本構想の下で下位の計画で策定されるはずなのです。今基本構想の中にそういうものが明確に謳われていないために、バラでやられているのかと想像しておりますが、それ以外の事も含めて、公共施設の老朽化対策というのは非常に財政的にも負担の大きなものですから明確にしておかないとその取り組みというのがどちらの方向に向くのかよく分からなくなるので、都市課題として一つ設けておくべきだろうと考えました。

また、都市像については4つありますが、この4つは特に変えないで同じでも良いのだろうと思いますが、行政の資料の中に人口推計されている、今回の案内の中にも人口推計だけ少し入っていましたが、平成32年ぐらいから減っていきますよという推計になっていますが、これは全国的な経緯からするとそういうのは自然ではないかと。そこで、やはり習志野市は先程の市長の話にもありましたように、非常に利便性の高いまちですので、その人口減に歯止めをかける、あるいはそれを増加させるようなものを目指したまちづくりをやはりやるべきではないかということで、将来像としてのまちとしては、どういうメンバーが増えて行けばいいのかと言いますと、当然のことながら我々のような年金者ではなく、現役世代で稼いでくれる人が多くなれば良いわけですから、若者、特に子育て世代が住みやすい、住みたいまちというような都市像を掲げて是非素晴らしいまちづくりをして頂きたいと思います。

最後に、先程の意見にもありましたが、その都市像の総括として「市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できるまち習志野」の「自己実現」という言葉は非常に難しいということを述べさせて頂きまして、私の提案とします。

提案③

○ 東京にいる息子がたまたま家に帰ってきて、「お父さん、習志野市には東邦大学、千葉工大、日大等々大学や高校がいっぱいあり、学生が大勢いるよね。」と言っておりました。しかしなぜか習志野市には魅力がなく、船橋に遊びに行ってしまうようです。ですので、できればこれから基本構想の中には「若

者に魅力あるまちづくり」等を入れたらどうかと思います。せっかく学生がいるという財産をいかに食い止めて、まちにお金を落としてもらおうか。これは商店街の活性化にもつながると思いますので、その辺も踏まえて、よろしくお願いします。

提案④

- 現在、まちづくりの一環で大久保駅周辺の意見交換会をやっています。どうやって市民を巻き込んで参加させるか一番大事だと思いますが、少し苦勞しています。そういうところで、行政が力を貸して頂きたいところが、まず第一点です。また、市民意識調査ですが、先程説明にありましたが、「わからない」が40%ぐらいという回答が、ほとんどになっています。結局、こういう部分が関心が無いということが反映されているのではないかと思いますので、その辺は今後の分析で出てくると思いますので、よろしくお願いします。

提案⑤

- 正直、諸先輩方のように意見がまとまってないのですが、せっかく40代ということで子育て世代中の意見という形で一言、二言申し上げたいと思うのですが、自分の子どもが都内に通う中で聞いたのは、習志野市は公立学校がすごく充実しているなという印象を受けます。例えば進学した先、正直都内は私立の附属から上がってくることが多いのですが、習志野市とか県立高校の中で、公立のレベルが高いという意識を持っています。特に習志野市内の小学校・中学校、正直総じて全体的のレベルは高いのかなと思っています。その辺をもう少し充実して頂きたい、逆にいうと指導要綱に捕らわれずにもっとレベルの高い教育をしても良いのではないかと考えております。それに際して、先程の施設の老朽化という点においては、やはり各市内の小学校・中学校の老朽化が進んでおります。子どもの通っている中学校の施設もかなり老朽化しているのですが、やはりそこで各地域の人口の差といますか、生徒数の差に対して同じ教育環境で教育をさせてあげられないというのが親として非常に辛い部分があります。かたや400人の学校、かたや1,000人近いのに同じ面積もなく狭い学校もある。物理的に難しいということは重々承知しておりますし、財政的な課題があるのも重々承知している部分もありますが、例えばエリアをもう少し均等にならすような学区分けを考えると、何か別の形の施設の利用方法を考えると、そういう意味で教育の機会の均等化・平等化を進めて頂きたいという親の気持ちがあります。

また一方で、私は市内で事業を行っておりまして、産業の面から言いますと、やはり習志野市とは大きい会社は他市に比べてあるわけでもないし、誘致することもなかなか難しいとは思いますが、まず人が集まるものがなく、目立った名所や観光施設が無いということもあり、人が集まりません。人が集まらないとやはり商売は難しいです。外に持って商売をしていく事業もできるのでしょうけれども、なかなかそういう一つのネタが習志野市には無いな、と。そういうところが今後あると、業者としてはありがたいなと思います。一方で、まちの地域毎の津田沼商店街・大久保商店街といった古くからある商店街が、昭和40、50年代の頃から見てきたまちと比べると、少し勢いがいかなと感じております。例えば、習志野市の狭い中でコアなまちづくりは出来ないのかもしれませんが、ある一方で、福祉が強いエリアだったりといった特色がある何か、今の秋葉原とかコミックマーケットとか、一つ何か起爆剤になるようなイベントとか特色あるまちを実験的にやっていくのも良いのかという気

がしております。

提案⑥

- 私も昭和 58 年にこちらに来たのですが、習志野市というのは、文教都市というイメージが非常に強いんですね。私の子どもが埼玉におりましたので、こちらに来てから小学校の傍に幼稚園があるとか、その点では素晴らしいなと思いました。確かに、習志野市の文教というのは、おそらく我々だけでなく案外知らない方もいると思いますので、大学の問題にしても学校の教育の問題につきましても、やはり表にもう少し宣伝していったらいいのではないかという感じは受けます。

将来の習志野市ですが、特に「安心・安全」の面から捉えますと、非常にいろいろな問題があるわけですね。災害の問題、それと防犯の問題とか、あるいは将来のすぐ目の前にきていますけれども、介護施設が果たしてどういう状態になっているのか、そういう問題も案外市民は知らないわけですね。ですから、そういう問題をもう少し知らせることによって市民の関心が出てくると思います。定年退職者がどんどん増えてきているという中で、周りに非常に定年退職した人間がいるはずなのですが、結果的に昼間見ても表に出てこず、男性陣も家に籠っているような感じがします。将来、この地域においてどうなるのかと思った時に非常に不安になったのです。女性の方は、子どもを育てる過程で近所や学校の付き合いなどが非常に多いです。ところが、勤め人の男性に関しては、生まれつき地域にいた人は別としても、途中からこの地域に来た人が周り近所をまるっきり分からない。極端な話、二、三軒隣の人がどんな人か知らないといったことが非常に心配になりまして、何か皆と懇親の図れるものを作れないかということで、我々の地域においては一つのクラブを作りました。誰かが何か行動を起こさないと孤立していく感じを受けるわけです。市がそれを作ることができるわけではないですから、地域毎にそういうものを作っていきことによって、災害や防犯あるいは地域の繋がりに役立つのではないかと思います。そういう組織作りに対して補助や助言や指導を行う事によって全体的な習志野市としての「安全・安心」なまちへと繋がるのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

提案⑦

- 昨年 3 月 11 日の東日本大震災の際にライフラインに関する部署に勤務しておりまして、電話の受付をしていたのですが、ある被害の大きかった市の住民の方から、「電気もガスも水道も止まっている。でも情報が入ってこないの、自治体に連絡して、いつになったら復旧するか話をして下さい。」というご要望だったのです。私の仕事は受信をするだけなので、私自身が発信することが出来ない立場におりましたので、上席に一応こういったお電話が入っているので自治体の方にお伝え下さいというお話をしました。ただ自治体の方も混乱していたと思いますし、私の方も電話が一本だけではなかったのでその後どうなったかというのは分からないのですが、あの当時大久保一丁目は特に被害はなかったのですけれども、今後、大きな地震が来るかもしれないという報道もある中で、私もそういった情報が入ってこなくて不安に思うことが出てくるかと思います。市民の立場に立った防災、特に起こってしまった時の対策をしっかりして頂きたいと是非思います。

提案⑧

- 防災一般を考えるのも大事なのですが、今、この震災において一番この習志野市で緊急性を持っているのは、やはり 14 号から海側の道路、特に高速道路から向こう側が、地震・津波が起こった場合に

逃げようがない。物理的に逃げられないというデータもあるように聞いておりますが、そうすると具体的にどうするかというと、防波堤を作ることなど出来るわけがない。出来ないわけではないけれど経済的に無理でしょう。そうすると、避難ビルのようなものを作らなければならない。交渉されているといいますか情報がありますが、ああいうものができる前に、部分的にも市民との話し合いの下に防災対策を作っていく必要がある、具体的な地域を選定して市民と話し合う。だから市民とのまちづくりというものを具体性をもって言えば、一例としてはそうなります。子育ての問題も同じで、やはり子育てしている人と対話をしなければ駄目だということです。高齢者でも介護している人達、本当に実践的にやっているとなんな時間がないのですが、やはり介護が終わったような人と市民の体験とか、そんな中で何に困ったのか、習志野市でこうあったら良い、というのはそういう風にしか出てこない。一般的に市民から意見を聞くのは良いのですが、個別に重要だと思われるものが見つかったら、やはり市民と具体的なテーマを選んで対応して頂きたいと思っています。

提案⑨

○ 今日こういう市民の声を聞く場が大事だとすごく感じておりますので、これからもより一層市民の声を聞ける場、また一緒になって対話が出来場、そこで討論ができる場をもっと作って頂きたいと思えます。今でも作っていると思えますが、より一層作って頂ければありがたいことです。

子どもが今、中学生ですが、本当にこの習志野市という所が小学校・中学校・高校と充実していると感じております。そういう中で、この間警察の方とお話したら、警察の方が「全国から見た時に、習志野市というのは犯罪の少ないまちなんだ」と仰っていて、それを聞いた時にすごく嬉しい思いがしました。しかしながら、まだまだ犯罪等はあると思えます。その中において、未来の習志野市を考えた際に、小さい子ども達がこの習志野市に住んで良かった、習志野市を好きになる、そういうまちづくりをこれからもしていかなければならないと感じます。

そういう面におきましては、一つ教育が充実しているのは勿論ですが、今、全国で教育委員会やいろいろな所で問題が起きております。そういう中で、やはり問題が起きる前にどうしたら良いか考えた際に、やはり教育者の教育ということをしつかりして頂きたいと思えます。今の教育者の教育が悪いということではなくて、より一層「人の心、人の命というものがどこまで大事なのか、本当に人に傷をつけるということがどう悪い事なのか」ということをしっかりと一人ひとりの人間として対一の教育者が子ども達に伝えていただき、そして「ああ、やはり人というのは大事なんだ」「命というのは大事なんだ」ということを思いながら住めるような人間作りを、より一層行って頂けるとすごくありがたいですし、本当に素晴らしいまちになると思えます。あとは、先程からお話にも出ていますが、イベントでも何でも構いませんが、何か「習志野市って良いよ。」と自慢できるようなものを、これからまた考えて頂いて、進んで頂ければ、良いまちになっていくのではないのかと思えます。将来を考えるとやはり子ども達はどうやって習志野市を好きになり、「習志野市に一生住むんだ」「このまちで良かった」と言えるようなまちづくりをしていければと思っておりますので、どうかそういうまちを目指しながらまた頑張ってもらえればと思えます。よろしくお願ひします。

提案⑩

○ 他の方の意見を聞いて思いついたのですが、人が集まるまちだとか、何かイベントをして魅力ある

まちづくりをしたら良いのではないかという意見があったので、具体的にこういうイベントを考えてみようと思い、一つ考えてみましたが、やはり習志野市というのは音楽のまちだと思います。こんな小さなまちで大学が三つもあるということ自体も非常に素晴らしいポテンシャルだと思いますけれど、それはそれなりにまた別の活用の仕方を考えなければいけないわけですが。音楽のまちという意味で、騒音の問題とか取り締まりの問題等あるのかもしれませんが、ストリートミュージシャンの集うようなイベントや場所を設けてはどうでしょうか。もちろんモラルの問題やエチケットの問題とか非常に大変だし、市が実施すると管理の問題とか大変だとは思いますが、何か新しい試みというものを考えてみては如何かと思っていましたが、先程からいろいろ人の集まるイベントの話が出ましたので提案させていただきます。

それから、先程タウンミーティングの話が出ましたが、これは要望にしかありませんけれど、今の自治会とか町会とか、そういう単位でしか市長は顔を見せないということになっているのですが、やはり先程からの話の中にもありましたように、地域で市民グループとして活動しているグループも多々あります。しかも、そういうある目的で集まっている人達の方が目的意識がはっきりしている、いろいろな意見を持っているわけです。これは、市長が新しいことをやられたことは非常に良いのですが、もっと発展させるために市民グループとの対話、タウンミーティングというものを早急に企画してやって頂きたいと要望をさせていただきます。

提案⑪

○ 是非、谷津干潟を大事にしてほしいといいますが、これからも活かして周りにも発信して頂いて、子どもにとっても自然と触れ合える良い機会でもありますので活用して頂けたらと思います。また、お母さん方と話す時に、まちづくりというところよりも、普段の日常で子どもが遊べる公園が無いということが話に出ます。防犯・安全の問題などから、どんどんボール遊びが出来ないとか、騒音や迷惑がかかるということで遊具も無くなってしまいますし、本当に子どもが普段、放課後どうやって過ごしたら良いのだろうと話していて、結局習い事や塾ということになってしまいます。そういった中で、市民プラザとか集まるところが出来たのはありがたいなと思っております。ただ、もう一つ、身体も動かすことも大切だと思うので、安心して外で遊べるような何かが身近にあるとありがたいなと思います。

提案⑫

○ 一主婦として習志野市は本当に素晴らしいまちだと思います。福祉も充実していますし、緑も多くて、ハミングロードを散歩するにも素晴らしいですし、子どもの福祉面でも船橋市よりもいち早く三年生までが子どもの医療費が無料になっていたりと恵まれていると思いました。水道料金等も、他市の方にも羨ましがられるくらい安くて、習志野市で良かったなと思っています。

ただ一つ、先程のお話にもあったのですが、都会だから仕方ないと思ったのですが、私の地域はご近所との繋がりがとても希薄です。先程のお話ではありませんが、主婦の私でも三軒先の方がどういう方なのか、特に旦那様でなくて奥様でも名前も分からない状態です。あと、ご近所に子どもがいない、小学生の子どもと遊んでくれる同じ年代の子どももいませんし、お母さんの友達もいない。いざ何かあった時に頼れる、親密なお付き合いができるご近所さんがいないのが悩みですが、これは市で

どうにかできる問題ではないのですが恐縮です。本当に知りあう機会がない、顔を合わせる機会がない。町会はあるのですが何かに取り組んではいるのでしょうけれども、私どもが気軽に参加できるような何かがない、特に主人は先程のお話ではないのですが、外に働いていてどなたとも顔見知りではない、このまま退職を迎えてしまったら多分孤立した悲しい感じになってしまうのではないかとしみじみ思いました。地域との関わりを持つのが煩わしいような感じなので、次の町会長、といった時に退職されている方でも手を挙げる方がほぼいなくて、頼み回るといような感じです。災害時等には、顔見知りの繋がりが本当に大切なので、もう少し交流等知り合いになれる機会があったら、今後も安心して老後を迎えられるのかなと思いました。

提案⑬

○ 二つのことを提案したいと思います。

一つは、シニアの人々がよりいきいきと生きがいを持って活動できるといいますか、人生を楽しむ・暮らせるようなことをグループ活動でもってやったらどうかと思っています。テーマとしては、例えば女性でしたら子育てもあるでしょうし、男性でしたらそれなりの問題があるかもしれませんが、読書とかいろいろな生き方について、いろいろなテーマについて、それぞれ市が候補を出して、そしてグループで集まって話し合いを設けてやる。シニアの人が多くなるけれど、本当に毎日楽しく生きがいをもって生活できているかどうか、それをもっと促進して、世のために人のために役に立つようなことをしたらどうかと思います。そういうことを市の担当者の方が、企画し募集して、グループが出来て活動を始めたら広報して頂けたらと思います。

もう一つは、子どもが健全に育つような状況を作ったら如何かと思っています。私自身の経験から幼児体験は非常に大切だと思っています。それと共に、子どもたちに対する働きかけをもっと大きくする。具体的に私はある小学校の図書委員を今年 9 月から始めることになっています。図書の管理が終わってから、子ども達にお話や紙芝居をしたいなと思っています。皆さん、今日特に意欲のある方が集まっておられるので、皆でもっとお互いに情報交換をして習志野市を良い市にしていくという活動をしていけたらと思っています。

提案⑭

○ 先程から文教都市の話が出ていましたけれど、理念として「市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できる都市習志野」で良いと思うのですが、イメージとしてはやはり文教都市習志野市をもっともっと対外的にもアピールしたらどうかと思います。

やはり、幼児教育施設とか小中学校、それから市立習志野高校もあるわけですし、大学もたくさんあり、これだけの面積の市にしては非常に文教施設が多いわけですね。もちろん音楽とかスポーツとか非常に有名ですが、更に将来の日本国民一人ひとりが国を背負っているということを自覚できる教育をしてほしい、現実的に考えるならばプログラムの中にボランティア教師、ビジネスで海外で経験されていた方もいらっしゃるでしょうし、国内でもいろいろな商売をやられたり、あるいは海上自衛隊の方もいるし、自衛隊の方、それから保安庁の方とか消防隊の方もいらっしゃると思うのですが、そういう方を呼んで現実的な話をもっともっとプログラムに取り入れても良いのではないかと思います。

また、先程市長が言われたように、習志野市は商業都市でも工業都市でもないし、ベッドタウンだろうと思います。そこで、税収を増やしていくにはやはり若い人を呼び込んで増やしていくしかない、そういう部分で先程から皆さんが言われているように、若い人をいかに呼ぶのかという話だと思うのですが、そういうことでは先程からご意見が出ているので非常に良い点かなと思っております。

あと予算としては限られた中で、重点施策をどちらに持っていく、予算配分をどうしていくかという話かと思っておりますが、やはり高齢者施策に国全体としても予算が行きすぎると思う部分もあります。その点、これからいろいろなことを考えていかれると思いますが、ご配慮頂ければと思います。

あと、先程から高齢者のサークルですとか、高齢者の活用の部分ですが、自主防災組織というのは私も関係しているのですけれど、やはりもう少し市が後押しをしてあげると、自主防災組織がもっとでき、そしてそういった防災訓練を通じて炊き出しとか、いろいろな訓練を通じて人のつながりができていくと思うのです。なかなか趣味をもって集まるというのは難しい部分もあると思いますので、少し市が後押ししてあげるといった部分が必要かなと思います。取りとめない話になりましたが、以上です。

【総括】

市長： 長時間にわたり、まちづくり提案会に皆さんからの貴重なご提案を頂きまして、誠にありがとうございます。私から若干一言ずつお話をさせて頂きたいと思っております。

まず、「生活実態を定期的に行えるまち」という観点、これは本当に私たちもいつも生活実態、例えば習志野市としての失業率はいくつなのか等について研究をさせて頂いています。これについては、より充実したものになるようにいろいろと考えているところです。その他、民生委員や児童委員や、高齢者相談員の方との連携を模索していきたいと考えています。

それから、「人口減を抑えるまちづくり」、これは重要な観点でして、これに伴う大きなことという、一つは先程 JR 津田沼駅南口周辺開発の話をしました。都市計画の変更、いわゆる調整区域だったところを市街化区域にすることにより、税収も人口も大幅に変わるわけですが、この辺りは地権者との調整もあり、慎重に考えていく一つの大きなヒントを頂いたと思っています。

「集客施設が無い」というお話の中で、一つ思いついたのは、いすみ鉄道という所があり、経営状態が問題になっていた時期がありましたが、今は黒字です。その要因は、鉄道に昔国鉄で使っていた時の客車を導入したことにより、鉄道マニアの方がそこにこぞって集まるようになったとのこと。逆にいえばたったそれだけで経営が一気に改善してしまったということだそうです。これは、私たちも発想の転換の中でいろいろと取り組んでいきたいと思っております。

「情報伝達の仕方」、どんな時でも情報伝達が私たちからできる体制については本当に大きなテーマです。昨日、東南アジアでの地震により、揺れていないにも関わらず津波注意報が出ました。これが注意報だから良かったのですが、警報であつたらどれだけのことになったのだろうか、そういった情報をいかに伝達するか、防災行政用無線の活用の仕方ですが、今の所、方向性としては無線の活用で考えています。

「教育者の教育」、これは大変重要なテーマで、習志野市はこれまでも取り組んできております。また、住みたくなるまちにしていくためにどのような観点が必要か、これも大変重要な観

点です。これは「税収の確保」の所にも繋がっていくことでもあります。実は住みたくなるまちで住んで頂くことによって、住民税・市民税が集まりやすい環境になりますので、それをまた市民サービスに転化できるという点で非常に大きなテーマです。習志野市出身の有名なスポーツ選手もいます。これを一つテーマにしたいと思っていますので、是非皆さんからもそういう方が習志野市に住んでもらえるようなヒントを、口コミで言って頂けると有り難いと思います。

「谷津干潟」についてもご意見を頂戴しました。谷津干潟は世界的に有名ですが、谷津干潟がどこにあるのか知られていないため、谷津干潟を表記する時には「習志野市谷津干潟」と努めて表記するようにしています。

最後に「自助・共助」に対する点、あるいは「シニア世代の活性化」と重要な観点を頂いたわけですが、本大久保連合町会の皆さんをはじめホームタウン自治会の方も今日来ていますが、自助・共助について大変な取り組みをされており、一つのモデル地区にさせて頂きたいと思っている程です。まさしくシニア世代の活性化ということ、地域・自治会の発展において役員を配置していることについては貴重なことと思っています。この自助・共助の観点で、市民意識調査の単純集計で、各施策について「わからない」と答えた人が圧倒的に多い点については、冒頭にお話しした「安全・安心」のテーマの中の一つ、いわゆる危機管理の一つとも捉えています。

「同じ市民の皆さんから温度差がある」とのご意見がありましたが、今日集まった皆さんはそういう意味では本当に習志野市に関心がある皆さんです。本当はこの会場が満杯になるくらいでないと、やはりまちづくりができない、そういうことの中で実はまちづくりというのは行政だけがやるものではなくて、やはり最終的な主人公は民主主義の大原則に基づく市民の皆さんの意識であり、その意識をなるべく要望に応えそして事務局としてしっかりと対応していくのが市役所であり、また足りない所をサポートしていくのが行政です。行政主体のまちづくりではなくて、あくまでも市民主体のまちづくりであるという観点を持って、今後の基本構想をしっかりと組み立てなくてはならないということを改めて認識させられた大変重要な貴重な会であったと思います。

これから先、皆さん方のそれぞれの活動がますますご健勝にて発展的に行われることを切にお祈り、お願いをしながら、私からの閉会のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

【第2回提案会】

【提案】

提案①

○ 今回 “まちづくり提案” のテーマとして「私はこういうまちにしたい」または「こういう街だったら住み続けたい」と言うことを問われ、現在、習志野市は、日本全体の中ではどういう街として認識され、どのような存在感であるのか、そして隣接する船橋市、八千代市、佐倉市、四街道市、千葉市などと比べて、「市」としての“都市力”はどうか、また、私は習志野市に住んで45年になりますが、この45年の間に習志野市は果たしてどう変わったのか、住みよさの点では隣接他市との違いは何なのか、他市に比べて習志野市が誇れるもの、劣っているものは何なのかを私なりに調べてみました。

全国810市区の実力が細かな分析と評価で綿密に記述されている「都市データパック」（東洋経済社発刊）に、全国の都市を対象にした「住みよさランキング」が毎年公表されています。この「住みよさランキング」は、総務省が公表している公的統計をもとに、それぞれの市が持つ“都市力”を数値化して総合点を出し、その順位を発表しており、それぞれの市が持つ都市力を「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」の5つの観点から分類し、さらに14項目の指標から算出した「総合評価」をランキングにして掲載しています。

習志野市のページを開いてみたところ、驚くべき数字が目にとまりました。「住みよさ」の総合評価で、習志野市が「85位」になっていたのです。「安心度」が748位、「利便度」が7位、「快適度」が25位、「富裕度」が81位、「住居水準充実度」が729位と、安心度と住居水準充実度は決して良いランクではありませんが、利便度、快適度、富裕度の3項目がずば抜けて良好だということで、全国810市区中、85位という素晴らしい順位に位置していました。

習志野市は昭和45年に「習志野市文教住宅都市憲章」をまちづくりの基本理念に掲げ、21世紀を見据えた「活力あるふるさと」をまちづくりの目標にして多くの施策を展開してきました。全国85位というのは、市民と行政の新しいパートナーシップをもとにまちづくりの理念に向かって一歩ずつ実現させてきたことの賜物であろうと思います。

今後の「都市データパック」のランキングにおいて、どのような順位を掲げていくのか、興味深いものがありますが、今後の現実から、未来に向かっての習志野市の姿を提案することとします。

まず、市内の所々に噴水やモニュメントを設置させて、そこに粋なスタイルのベンチが置かれて安らぎの場を設ける、そうすると訪れる人達の心を潤すまちとなる。こういう状況は少ないです。これがほしいと思います。また、図書館や資料館といった文化施設が分散し規模が小さいです。千葉市中央図書館を訪問した時「さすが千葉市」と思ったので、「さすが習志野市」と思えるような資料館や図書館を作ってもらいたいです。育児家庭にとって公園が数多くあるのが良いため、子どもの遊ぶ場所が自由に選べる公園がほしいです。公共施設のスロープとかトイレといったバリアフリーが充実してほしいと思います。若い方には、東京等で仕事をして、残業して夜間に帰る時に、安心して買い物に立ち寄れるまちになってほしいと思います。

提案②

○ 一つの大きな考え方は、ナンバーワンよりオンリーワンで、ナンバーワンを実行しますと、どうしてもお金がかかります。しかし、オンリーワンであれば基本的にお金がかからないことで出来るのではないか、日本に一つ、それこそ世界に一つの習志野市というコンセプトで考えたいと思います。

具体的にどういうことかと言いますと、私は旅行好きでいろいろな外国に行きますが、その街まちに一つの顔があります。そこでどういうことが起こるかと言いますと、一つは私がずっと考えているのはまちの景観です。これで一番目につくところは、広告がないということです。ですから、現在の習志野市には何箇所か、一つのまちづくりの拠点があると思いますけれど、あれは市全体に広げまして、特に住宅地に関しましては一切の広告はないと、できないということを提案したいと思います。特に、市長の前で恐縮ですが、政治家の看板ほど醜いものはありません。それから自動販売機の赤々としたものが、まちの景観にそぐうとは思えません。どうしても設置したいということであれば、何か覆いで隠した中に自動販売機を設置するということになって頂きたいと思います。これは、習志野市全体でできればいいのですが、商業地域もありますので、少なくとも住宅地ではゾーニングをきちんと実施する、尚且つ住宅については一切の広告については上げられないという形をとれば、少なくとも習志野市の景観がオンリーワンになると思いますので、提案させていただきます。

提案③

○ 普段は建物の設計をしておりまして、そういう視点からいろいろ感じたことを申し上げたいと思います。先程からも景観という話が出ましたが、私もまたそう思っております。広告もそうですが、やはりもっと大きく捉えると、習志野市のまちは美しいまちであってほしいと思います。例えば具体的に言うと、新習志野に真っ赤な原色の柱が合ったり、市役所に行く途中の某病院に緑色の非常に強い屋根があったりと、まず色彩を市の方である程度指針を出して頂くのがよろしいと思います。そのためには、景観条例を作る等すると良いと思います。それから、ビルとかマンションを乱立するのではなくて、建物の高さを決めて、ある程度計画的に行って欲しいので、そういったものに関しても指針をしっかりと出して高さ緩和が出来る所はしっかりと緩和するといった都市計画的な視点が必要ではないかと思えます。

また、海沿いや川沿いの空き地といった場所については、将来的な構想を描きながら具体的に時間をかけて、計画的に作っていくという視点が大事かと思えます。茜浜地区というのは元々企業を誘致する土地として出来ているわけです。しかし、なかなか経済不況もあって誘致が非常に難しくなると思います。そういう中で、将来あの土地をどうするのかということをもっと計画的に立てて、具体的に実現化する方向に考えて行った方がよろしいと思います。

それから、最初の方も仰っていましたが、生涯学習の視点から、市にはまだ中央図書館がありません。市では、今公共施設の見直しを検討されており、そのための一つとして複合施設として方向性を出されておりますが、それも含めて将来的に一つ検討して頂きたいと思います。それから、今日の資料を読んだ時に、基本構想ですから変えられないでしょうけど、非常に言葉が抽象的で綺麗な事ばかりが並んでいて、非常に美しい言葉だと思うのですが、もっと具体的な言葉を選んで基本構想にして頂きたいと思います。

提案④

- あまり具体的な話にはならないかと思いますが、今ちょうど言われているようにこの基本構想には非常に綺麗な言葉が並んでいます、現実的に考えてほしいと思います。どこからお金を持ってくるのですか。これが、聞いている身としては非常に不安になっています。お金の問題もあり、どうしても綺麗な言葉で言わなければいけないことなのかもしれませんが、今言われているように「高齢者にやさしく」「安心・安全なまち」を守り続けたい。

私は定年になりまして、市にお金をお渡しできない、税金をたくさん払っていない人間になりつつあります。逆にそういう人達も増えてくるのではないのでしょうか。「安心・安全だけを下さい」と言っている訳にはいかないとしたら、ここ20～30年の中でみると我々も何か役に立つ考え方を持つべきかと考えています。

さて、我々は何をしたら良いのか、つまり高齢者に優しい施設がどうしてもほしいと考えると、逆に市外の方からも来てくれるよう、安心・安全なまちで高齢者に優しく、施設を充実させ、歩道等を整備し、ベンチ等休める場所を作る等して、皆で「豊かなまちに住みませんか」と声をかけるようなまち、一つの産業とはっきり言ってもいいようなまちを作り上げて良いのではないかと思います。図書館を作るのであれば、老人が例えば夏に本を読みながら、あるいは音声ガイドを聞きながら過ごせるようなものをあわせて作ります。当然、市民はそれを利用できるわけですから、充実したまちになります。

提案として、高齢者に優しいまちづくりというよりも、「高齢者に優しいまちを外に提案するまち」。これに合わせてそれを行うために「安全・安心なまち」を作り上げます。「老人・障がい者に優しいまちをつくります。皆さん来てください」という、一つの産業として「高齢者をテーマに入れたまちづくり」をしても良いのではないかと思います。そうすれば若い人達も来て共にまちづくりをして頂けるのではないかと感じました。

提案⑤

- 私の前にもお話が出てきましたが、お金がベースになってくるわけですので、その工夫を市と市民が協力し合えるような体制づくりをしてほしいと思います。例えば運営していく中でいろいろな施設の人件費が一番大きいと思うのですが、市の職員だけでなく私達に提供して頂き、例えば当番でボランティアとしてちょっとした仕事を住民が行い、皆が協力し合い、住民参加型の運営をしていけるまちにしていだければと思います。

それともう一つ、震災があった時なのですが、交通網が止まり帰宅困難になった方が沢山いましたので、そういう面を皆が理解し合えてお互いに全国的に助け合える優しいまちになっていただければと思います。

提案⑥

- 最近、原発の話が出ていますが、地元近くで海風が吹くため、茜浜等で風力発電をやっては如何かだと思います。太陽光発電を推進していると思いますが、日本の戸建てを見ると屋根の傾斜等が高かったり傾きがあったりとか、あるいは新築でない状況において、100万円以上のコストをかけるのは現実的なのかを考えると難しいと思います。

二点目は自転車等ですが、習志野市に限らず町中を安全に自転車が走れる場所は極めて少ないため、安全に自転車が走れる場所、サイクリングコースの整備をしてほしいと思います。

最後に、コミュニティ関連について、市町村単位でまず頂けることは非常にありがたいと思いますが、隣接する市と行政と協調する体制を作りながらやって頂けると、地域ごとに広域連携の形として施策が具体的な形になっていくかと思います。

提案⑦

○ 津田沼駅南口にマンションを作る話が出ていますが、マンションを作ったりして人口を増やして、お金の問題も収入が増えて解決するとかいろいろ考えるのですが、将来的に人口が減っていくというのは確かだと思います。それにどう対応するかと言ったら、船橋市であろうが千葉市であろうが、他の市から人を集めて習志野市に住んでもらう、と考えるしか道が無いかと現状では思っているのですが。それでどうすれば良いのか考えますと、要は習志野市が他の周辺の地域よりも住みやすいとか住みたいと思う市であってほしいと私も思っていて、綺麗なまちであったり安全が第一であったり、介護の関係などいろいろ問題があるのですが、その辺の問題を解決するにはどうするか考えました。

習志野市には大学が 3 つも入っているので、例えば大学の先端技術を試験的ながら習志野市で活用して頂くなど、もっとそういう大学と地域との連携があっても良いのかと思いました。特に風力発電の話もあったのですが、確か自分の記憶では日大で風力発電コンペというイベントをしている話を聞いていますし、安全の問題であったら特に千葉工大はロボットで有名ですから、例えば市内の地区をロボットが回って警備をするなど夢のある話があっても良いのではないかと思います。

医療や介護の問題についても大学の方々といろいろ考えていければ医療も解決しますし、特に最先端の医療を使っている市であれば、やはり自分達が他市に住んでいたとしても住んでみたいと思いますし、そういう夢があっても良いのではないかと思います。

提案⑧

○ 私は平成 24 年の市民意識調査で、市が目した「住みやすい」とは逆に「住みにくい」方に目を向けてみました。その中で、高齢者施策等についてももう少し具体的なところを突っ込んでみようかと思っています。10 年後、20 年後になりますと、買い物難民等が出るのではないかと思います。自分のまちを考えた際、コンビニといったものがすごく少ないです。また、市の道路が慢性的に渋滞している所で、バスが定時運行できないために買い物に行くにも不都合が出てくる、そして高齢者で認知症になってしまいますと、どうしても家族だけでは足りません。その際に、防災行政用無線を使って探して頂くということを考えたいのですが、現在の防災行政用無線では聞き取りやすいとはとても言い難いです。このあたりを改善して頂くのが必要かと。これらを今何点か挙げましたけれども「安全・安心で平和なまちづくり」にも関わるのではないかと思います。

もう一点、習志野市単体だけで考えるのではなく、隣接する市、船橋市または千葉市などと提携する様な形で何か密に連携を取って、これからの未来をよろしくお願ひしたいと思います。

提案⑨

○ 子どもが大学生と高校生になりましたので、今働いているのですが、以前は専業主婦をしておりました。新しく仕事をする時にすごく苦労しましたし、今、皆さん子育てが終わった方がパートに出るのですけれども、すごく苦労していらっしゃる方の話をよく聞きます。今の若い方は、働き続ける選択肢を取る方も多いのですが、やはり子どもは自分で育ててその後にもう一度働きたいという方がすごく多いと思います。そういった方が、やはり働く場所がある、パート先が近くにある、子どもが学校から帰ってきて比較的傍にいられるというのは母親にとってすごく大事なことだと思います。以前ある企業の話聞いたことがあるのですが、そこでは地元企業を作って地元の方を雇用する、それが地元の方が豊かになって、近場で働く、そしてお金も得るということは、そのまちにとってすごく良い事だと仰っていて、本当にその通りだと思いました。子育てが終わった方が働く場所を得るため、企業の誘致等を考えて頂くことが一つです。

もう一つは、現在私が働いて買い物をしようとした時に JR 津田沼駅では買い物ができません。何故か、というものすごくお店までが遠いからです。今後、津田沼駅南口は利便性を一番考えてほしいです。それから新習志野駅も同じですが、やはり遠いです。雨に濡れない、利便性を将来的なまちづくりとして考えて頂きたいと思います。

提案⑩

○ 今年の春、市民カレッジを卒業しまして、在学していた時もそうなのですが、その当時からいろいろ卒業生が地域に活動できるような道筋を立てていきたいと思っていました。それで、去年 16 期が卒業しまして、3 月の卒業間近に各市内にある公民館の学習圏会議の方から動き出して、各地域に分かれたグループに、卒業後は是非地域に入ってボランティア活動をして頂きたいというお話をしまして、今年度 16 期生は全員こちらの公民館の方の福祉系のいろいろな事業に協力して頂けるようなグループができました。是非、市民カレッジの人達もそのまま卒業して友達づくりで終わるのではなく、せっかく市のことを勉強し、友達も出来た所で、地域にいろいろと還元して頂きたいと思います。

それと、ボランティアをやはり小学生の頃から教育していくことが非常に大事ではないかと思えます。以前は子ども会やボーイスカウト、ガールスカウト等がありましたが、今はスポーツの方にお子さんが多くなりました。スポーツはしていてもボランティアはできると思えます。まちのごみ拾いといったボランティア精神を持って、ある程度大きくなって、それこそ退職してからでも以前そういうことをやったという経験があると、いろいろ地域にも入っていけるのではないかと思います。だから、学校の方でも一年に一回か二回は全員揃って何かボランティアができるようなことを市の方でも教育委員会の方でも考えて頂きたいと思えます。

提案⑪

○ 今日は三つの提案があります。一つは商業振興に関わること、もう一つは高齢者施策に係るのかもしれませんが、いわゆるバリアフリーということと、それから HPH というのがありまして、最近の世界的な動向であるのですが、いわゆるヘルスプロモーション、それからホスピタルサービスプロモーションです。一つのまちづくりのキーワードというのが、「住んで良し」「訪れて良し」のまちづくり、それから「習志野市の子育て日本一」、それからこれは厚労省の標語ですが、「ゆりかごから墓場まで」、

何かイメージアップするような基本的な標語に基づいたまちづくりということを掲げていきたいところです。それに関わって、先程申し上げた商業の振興ということに関して言えば、大産業が実は無いです。とすると、中小企業の振興ということになります。では特長的な企業はないか見ますと、いずれも地元産品の振興、それから商店街の振興がキーワードになります。地元産品と言いますと、地産地消が軸になっているのではないかと思います。私は首都圏というのは、むしろ首都圏への進出を考えるべきだろうと思います。例えばアンテナショップというのがあります。あるいは、都内のある区の商店街と連携して産品を送るということもやるという、創意と工夫を結集していけばいいのではないかと思います。

それから、個別には今スイーツブームで、習志野市も行列のできる所が大久保の近くにありますが、一店舗だけでは限界があります。市としては商店街等と支援・連携して、産品を特定し、都内に進出するなどして売る場所を確保することも考えてみたらどうかと思います。

提案⑫

○ 私は「健やかなまち」というコンセプトで考えてみまして、例えば持続可能な社会という言葉がありますが、そういう社会を自分達のまちづくりから発信しスタートしていきたい、そしてそれを考える時に「省資源」ということと「ごみ問題」、それから「食品」の観点から考えることが重要なのかと思います。それと「情報」です。情報がどのように扱われるかによって、以前は情報が多様化した時代と、最初の頃は通勤をしなくてよくなるということだったのですけれど、情報をどういう風にご利用するかによってそのまちが変わっていくだろうということ、それから高齢社会というのは若い家庭にすごく負担をかけてしまうだろうということがあります。

また、市民意識調査の中で特に重要だと思う施策で、環境問題が39%とありましたが、その観点から情報をどう活用していくかということ。また、高齢化が進むと若い家庭の負担が大きくなるかと思えますので、若い世代のアシストとして教育の手助けになるよう知育・体育を学べる場所を地域の拠点として設けたりしてあげたらいいと思います。それと、ごみ問題のコンセプトは、自動販売機の話も出てきましたが、「ごみを作らない・燃やさない・埋め立てない」そういうコンセプトで、自分達の生ごみぐらいはリサイクルするという形にしたいと思います。

それと昨年3月11日の東日本大震災で、被災地の方は全てを無くされたわけですが、私達は原点に戻って本当に必要なものは何かを考えて、まちづくりを考える必要があります。お金のない時代ですから、お金を使わないまちづくりをするべきだと思います。今高齢者もたくさんいますけど、もう少ししたら動けない高齢者が増えてしまうと思いますので、今その労働力ならぬ老人力を使わない手はないと思うので、それを今すぐ使ってボランティア等に参加出来るシステムが出来たらいいと思います。それで、被災地の声にしっかり耳を傾けて根本からお金を使わないまちづくり、子ども達が元気に健やかに育っていけるまちづくりを是非お願いしたいと思います。

【総括】

市長： 長時間にわたり、まちづくり提案会に皆さんからの貴重なご提案を頂きまして誠にありがとうございます。私から若干一言ずつお話をさせて頂きたいと思います。

沢山ご提案を頂きましたが、時間がなくて大変申し訳ございません。ただ、これだけ多くの提案が出たことで、有意義になったかと思えます。またこういう機会を設けても良いということは午前中の提案会を見ても分かりましたので考えさせて頂きます。住みよさランキング 85 位の街ということで、実はもっと大々的に広げていかなければいけない、大変誇るべきことだとありましたが、本当にこの視点を頂きまして誠にありがとうございます。

「景観に配慮した街並み」という大変貴重なご提言を頂きました。実は JR 津田沼駅南口にある 35 ヘクター一帯の整備を現在進めておりますが、あの一帯は例えば電柱の地中化、景観・街並み、建物の色といった自主規制を持って独自の街を作っているところなので、私たちも関心を持っているところです。屋外広告物については、習志野市は特にいわゆる風俗系の立て看板が乱立していた時があり、それについてはすぐに撤去することをずっと繰り返していた時期がありました。屋外広告物についての規制・取り組みは進んでいると思っていましたが、新たなご提言を頂きましたので、しっかりと反映・検討をさせて頂きたいと思います。

「茜浜地区の計画的な土地利用」の話が出ましたが、基本的に京葉線以南は工業地域いわゆる財源基地として活用していくというプランであります。昨今やはり景気の波がありましたが、実は今は逆に物流系の引き合いもあり、慎重に対応させて頂いているところです。

中央図書館については、習志野市の図書館行政は中央図書館化するというものと、地域図書館を配置する、二つの取り組みがあります。習志野市は従来地域図書館でしたが、現在、中央図書館の要望が多いため生涯学習の取り組みの中で今後どうして行くか基本構想の中でもしっかりと目指していきたいと思っています。

「財政計画をしっかりと出すべき」ということについてもご意見を頂戴しました。今公共施設の再生に取り組んでいますが、これにも財政計画が大切な所ですので、基本構想の中でもしっかりと示していきたいと改めて感じた次第です。

「津田沼駅・新習志野駅から濡れないで商業施設に行きたい」とのことですが、これについては市としても、ごもっともな課題として持っています。財源の問題はありますが、取り組んでいきたいと考えています。

「習志野市の発信力の向上」については、地産地消、市場の開拓、商店街の結束、ヘルスプロモーションについてご提言が出ました。ヘルスプロモーションについては、実は 12 月議会を目標に健康なまちづくり条例（仮称）に取り組んでいます。また、地産地消に関してはいろいろな仕掛けをしていますが、中でも地元産品である「彩誉（ニンジン）」は、今年から更なる市場開拓を狙っているところです。また、現在北は仙台、南は大阪で販売をしていますが、今後更なる販売ルートの拡大を検討しています。

「本当に必要なことは何かということをしかりと問いかける行政」という提言を頂きましたが、これは大変大切なことだと思っております。消費者行政ということもしっかりと取り組んでいきたいと改めて認識している所です。

「連携」についてもご提言を頂きました。まず、震災時応援についての相互協定、市境につ

いてですが、前原商店街と津田沼一丁目商店街、津田沼北口まちづくり協議会という珍しく市境を跨いでいる協議会があり、非常に話題になっているためこの辺りの連携をしっかりと進めていこうと考えています。そして、大学との連携について、実は研究内容とのコラボレーションもあるのですが、大学独自の施設（野球場・図書館等）と市が如何に連携していくのかを一つの鍵としています。そして、防災行政用無線については、現実的に国に防災行政用無線を自動的に受信できるようなラジオをつくるよう提言していくことを考えています。今のところは、個別受信機の中で対応させて頂こうと思っておりますが、将来的な情報発信等も含めてしっかりと連携させて頂きます。

最後に地域の人材を子どもの時から育てるということは、市民協働の中で非常に重要なテーマです。やはり、地方自治体の主人公はあくまでも市民です。この市民の皆さんと行政が一体となって、市民が主体となったまちづくりを行政としてしっかりサポートして作り上げていくことが、平成26年度以降の大変重要なテーマになっていきます。特にこれから先、いろいろな困難が待ち受けている中で心と心を繋げていくことが一番であると認識しております。今後も信頼関係をしっかりと構築しながら行政を進めていきたいと改めて認識させて頂いた大変貴重な機会だと思えました。

これから先、皆さん方のそれぞれの活動がますますご健勝にて発展的に行われることを切にお祈り、お願いをしながら、私からの閉会のご挨拶とさせて頂きます。

本日は、ご協力頂きまして、誠にありがとうございました。

【第3回提案会】

【質疑】

○ このまちづくり構想はどういうものなのか、おそらく構想があって基本計画ができて、その下にいろいろな計画ができていく大元になるものと考えていますが、その後どんな計画ができてくるのでしょうか。

→ 基本構想について、基本的に行政運営・まちづくりは計画を持って進めていくようにという国からの話があります。従来この基本構想は、議会で議決を経て、計画通り進めていかなければならないという部分が国で定められていたのですが、それは地方分権の中でなくなっています。それでもやはり行政としての責任ということで、計画的に将来を見据えたまちづくりを進めていかなければならないという中で基本構想を定めるようにしています。

習志野市では文教住宅都市憲章を大きな柱に据え、その下に基本構想を定め、更にはその下には基本計画、その下には具体的な事業を書いた実施計画という部分を定めていきます。これが、いわゆる三段構成で計画作りをしております。それと、皆さんもご承知の通り、個別の具体的な計画も実は市の中にはいっぱいあります。それも全ては基本構想から枝分かれしていくとお考え頂きたいと思います。習志野市の根幹の計画というものがこの基本構想とお考え頂きたいと思います。

○ 習志野市は規模がコンパクトで好きですが、市町村合併の話の中で、習志野市は今後どんなまちでいきたいのか知りたいと思います。

→ かつて、いわゆる「平成の大合併」というものがありました。全国の市町村の数は 3,200 を超えていましたが、今は 1,700 ぐらいになりました。南の方は市町村合併が進み、自治体が 3 分の 1 以下になったところもあります。千葉県は、当時 80 ほどありましたが、今は 54 となりあまり進んでいない方です。一応「市町村合併特例新法」が岐路を迎えたことから、ひと段落したと思います。習志野市も、かつて隣の市と合併の協議をしてきたことがありましたが、今はほとんど無くなりました。そのため、今後の習志野市では、例えば道州制導入や市民全員の意思等といったことがない限り議論されることはありません。また、現状で近隣市と合併する考えはありません。

【提案】

提案①

○ 一度退職して再雇用というのを経験しまして、それも終わりました完全に無職の状態です。最初感じたのは、再雇用になった時、今までは給与とボーナスをもらっていましたが、再雇用で給与だけもらってそれが税金とか社会保障等で半分無くなって、突然ワーキングプアに自分が転落したと気付いたのです。そして今、自分の地域を見渡しますと、やはり私より高齢の人もいますし、同じように高齢の方もいらっしゃいます。そして、ほとんどの人は子どもが家を出ます。昔ですと、ワーキングプアになって年を取ったら自分の子どもの給与で何とか生活できると考えていたけれども、今は本当に年金だけで生活をしなければいけない、周りの人を見るとそういう人がたくさんいるし、一人になってしまった方もいらっしゃいます。先程のアンケートの結果を見たのですが、「住みやすい」「まあ住みやすい」を選んだ方が 82.5%で大変良いまちに見えるのですが、自分の置か

れている環境と照らし合わせると胸の中を秋風が吹いている感じになってしまいます。これからの対策としましては、この82.5%以外の人、将来に不安を感じている人の不安は何かということ把握するのが行政としても我々としても非常に大切なことになるのではないかと思います。それを把握して尚且つ対策を作っていくことが、基本計画のもっとも根幹に置かれるべきではないかと思います。市長が今財政的に豊かな地、住みやすいまちと言っておられました、我々は取り残されてしまうのではないかという気が致しまして、今は働くよりも手当をもらった方がいいという風潮も吹いてきている、そういう現状は習志野市も同じ立場になってくるのではないかという気がしています。したがって、一つの提案はこの十年間の基本構想で行け行けどんどんやってきて、それで今の現状、今までと違って非常に貧富の差と言いますか、現役で働いている方は年収500～800万円となっているのでしょうけれど、年金で働く人はもう300万円前後ということになって、しかし税金や社会保障はどんどん取られていく、そういう中でも生活していけるような都市づくり、そういう展望をどうやって作っていくのかを皆で語る場が欲しいです。もう一つ、税金やいろいろな介護保険など、どんどん掛かってくるわけですが、逆にそういう支出を減らすにはどうしたらいいのか、結局我々がこれから老人になって人の世話になっていく、そういう人の世話にならなくても生活できるような健康づくりをどうやって皆で行っていくのか、もう一つはバリアフリーの問題を皆で工夫していくという一つの構想を、弱い人の立場に立っていく行政を我々は望んでいます。

提案②

○ 私も、いろいろな人の違いを認め合って尊重出来て、そしてその人が住みたいと思ったら住み続けられるまちであってほしいと思っております。そのいろいろな事情の中には、退職後のこともありますし、それだけではなく、例えば学校のいじめの問題もまさしく違いを認め合えないこととか、貧困・生活保護世帯も課題だと思っておりますが、その人達がそうしないと生きられない状態の中でもセーフティネットに住み続けられるまち、私がいつ交通事故や病気になるか分からないですが、そういうことが起きてこのまちで住みたいと思ったら、いろいろな支援・お手伝いをし、働ける時には税金を払ったりボランティアをしたり、こういうまちづくりに参画をしていながら、自分がSOSをちゃんと発信し、それをキャッチしてもらい住み続けられるまちにしてほしいと思います。

また、障がいのこともそうだと思いますが、中途障がいもありますし先天的な障がいもあると思います。友人のお子さんが重度心身障がい児ですが、お話を聞くとお子さんが大きくなったらこのまちに住めるのか考えているそうです。残念ながら、習志野市には重度心身障がい児の通える・住める通所施設がなくて、多分市外の、もしかすると距離の離れた所に行かざるを得なくなってしまうのではないかと思います。せつかくこのまちで育った大切な命と、お子さんの周囲の友達との関係を切って遠くのまちに行かなければ住めないようなことがないような準備を、私達大人がしていかないといけないと最近とても強く感じています。それは、初めに申し上げましたいろいろな事情を抱えた人がいることを前提として、違いを認め合って、それを尊重し合って、その人達がこのまちに住みたいと思ったら住み続けられるまちを作っていく、自分達市民も一人ひとり出来ることをやっていける、参画できるチャンスのあるまちを行政の方等と一緒に作っていきたくと思っています。

提案③

- 市民意識調査で「住みやすい」という意見が多い中、やはり「住みにくい」と感じている当事者の意見を取り入れたまちづくりをしていけば、皆が住みやすいに繋がると思うので、基本的にはそこをやって頂きたいと思います。あと、子どものことがあるのですが、肢体不自由児なので学校に行くのにバスで一時間以上かかるのが現状です。このまちには、肢体不自由児の子どもが通える学校等がないのです。地域の学校に行くのが理想なのですが、現にその受け入れがないために遠くに行っているという現状や、そういう子ども達のいる親の意見というのは絶対数が少ないためなかなか反映されてこない現状があります。少数意見とは結構大切なことがたくさんあって、まさに解決できていないことがたくさんあるのが現状なので、そこを取り入れてまちづくりに反映して頂けたら一番理想的だと思います。あと、私は高齢者のデイサービスに勤めておりますので、そこで感じる事があるのですが、雇用の問題等も結構厳しい現状があり、まして認知症が入ってしまったらすると大変になるということがあり、それでも働きたいと思っていらっしゃる方がたくさんいて、少しでもフォローできる面があればそういう方も働けるのではないかと思います。病気、認知症、障がいの有無に関わらず、誰もが働きたいと思った時に働ける現状があれば良いと感じています。

提案④

- 子育て世代としては、子どもセンターがあったり、公立幼稚園がほぼ公立小学校学区に必ずありますので、大変子育てしやすいまちだと感じ住み続けております。現在東習志野こども園で PTA 会長をしておりますが、多くの子育て世代の代表として思うのは、たくさん核家族が引っ越してきて大勢の同年代の世帯が、ほぼ大型マンションや戸建てに住んでいますが、その世代がぐっと年代が上がった時に一気にどうになってしまうのか不安に感じます。東習志野小学校等は小学校の児童数が急激に増えまして、私が少し心配かなと思う所は、やはり「安心・安全」について考えると、防災の拠点にもなる学校の耐震を強化してほしいと思います。東習志野地区に限った話になりますが、一気に東習志野小学校の人数が増えているので、バランスというのでしょうか、学区に限られますとどうしても東習志野小学校になってしまうので、地域とのバランスで何とか一気に東習志野小学校だけがパンクしないような形を取って頂ければ安全・安心に住んでいけるのではないかと思います。あとは、この地区は今日も祭りといった地域密着の交流があると思うので、今度私達子育て世代が担える立場となり、今まで前の世代が作ってきたものを継承し、地域との連携を取り入れながら子育てをしていきたいと思っております。

提案⑤

- 習志野市には郷土資料館がないのですが、私は歴史が好きですから、習志野市の歴史というものをよく知りたい、そしてこの習志野市に越して来る方もどんなまちなのか、そこに行けばすぐ分かるような郷土資料館というものがあると良いと思います。

提案⑥

○ 先程出た学校の耐震に関連しまして、学校というのは緊急時の避難場所にもなる場所です。この間、サマーコンサートに行こうと思い、実花小学校に行ったのですが、体育館で開催されていましたが、車椅子が入れなかったということがありました。高齢者の問題等も関わってくると思いますので、これからそのようなことを考える時はお年寄りも障がい者も入れる体制というものも考えて頂きたいと感じています。

提案⑦

○ 先程、市の方からキーワードとして「安心・安全」といったお話がありまして、私は習志野市に住んで約40年になりますが、40年前当時のことを思い出しますと、非常に地盤が悪い地区があちこちにありましたが開発を進め、今はその地区が住宅地になっているという状況になっていると思います。10年20年先の問題ではないのですが、将来の問題としてそういった地域の災害対策をある程度考えて取り組んで頂きたいと思います。

【総括】

市長： まず、「安全・安心」の中のご提案として「市の生活実態を常に把握する」ということです。実は昨日の提案会でも出まして、私どももそのことについて取り組んできました。現状では国からある程度の統計メニューを配られ、それに基づいて市でやっていますが、そのメニューが実態に基づいていないという意見が各地で出ています。この統計の取り方が課題という声が出て来ている中で、私たちが統計を取る精度を高めていきたいと思っています。

福祉関係のお話が出ていましたが、先程の財政の問題とも関わってくると思います。習志野市は財政上悪くないという言い方をしましたが、それは全国と比較した場合であり、財政状況は決して好転ということではありません。ところが、習志野市は首都圏にあって、例えば市民一人ひとりの納税環境がデータによると100番以内に入っています。逆に、高度経済成長の中、習志野市の行政としてとにかく資金が措置できる中で、特徴的なこととして幼稚園と公立学校を配置し、直営で運営するという部分がありました。ところが、今景気が下がっているため、景気の上昇角度に合わせて行政も同じように歳出を重ねてきたところで、景気がぐっと下がってしまった中で、伸び代が急激に狭まっているのが今の状況です。将来的に、今若干余裕がある部分が、今度は足りなくなるのではないかと危惧しています。そんな中で、東日本大震災等が起きて、今の所はどうしても最終的には地方債の発行に頼っている部分もあります。

そのなかで、「市民協働」の話にも繋がりますが、資金がない中で資金を捻出する方法ですが、やはり根幹としては歳入があります。その歳入の根幹というものは税金です。そこで、税収としてしっかりと納税して頂くためにはどういうことができるかですが、例えば工場の誘致等もありますが、習志野市の場合ベッドタウンという特徴があるため、個人市民税の税収が非常に大きいです。端的に言えば、市民の数が増加すればそれなりに税収が上がってきます。

今、JR津田沼駅前の35ヘクタールの土地開発を行っていますが、試算ではインフラ整備の資金を引いても5億から10億円の歳入が入ってくると言われています。その歳入を習志野市全域に配分するのですが、その中でやはり単に福祉、単に施設をとということではなく、いわゆる

全体的な繋がりの中で、私たちは民主主義の一人の主役、当事者として、歳入いわゆる納税を意識していく行政を展開していかなければならないと思います。

郷土歴史資料館のお話も出ましたが、やはり原点というものを市民としてしっかり捉え認識し、また捉えた認識を市外の人に紹介していくことは非常に大切なことだと思います。そのことにより、一人でも多くの市民の皆さんが集まってくるかもしれませんし、あるいはそのまちに魅力を感じた企業が出店されるかもしれません。そういった点では非常に大切な話だと思います。ただ、今の財政状況の中で非常に難しい所ですので、それに代わるソフト面でできないか考えている所です。

また、在校者数の平均化ということでしたが、一番小学校の児童数が多いのは大久保小学校で約 970 名います。一方で、向山小学校は約 220 名しかいません。現在の学区制度については歴史的な背景等もあり、なかなか難しい問題がありますが、そんな中、向山小学校や秋津小学校等といった人数の少ない小学校では、「自由学区」という他地域からの受け入れを行っています。極力少人数学級とか少人数で学校運営し、また市としてもそういった学校の紹介をさせて頂いています。

これから先、皆さん方のそれぞれの活動がますますご健勝にて発展的に行われることを切にお祈り、お願いをしながら、私からの閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日は、ご協力頂きまして、誠にありがとうございました。

このまちづくり提案会は、2 日間にかけて開催してきた中で、市民の皆さんから、本当にたくさんの貴重なご意見を頂戴しました。この中で、今後のまちづくりは行政だけで行うのではなく、市民の皆さんと一緒に「市民が主役のまちづくり」を進めていくことが重要かつ不可欠であるという認識のもとに、次期の基本構想を策定していかなければならないと改めて認識させていただいた大変貴重な会であったと感じております。

これから先、皆さん方のそれぞれの活動がますますご健勝にて発展的に行われることを切にお祈り、お願いをしながら、私からの閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

事務局：本日は、貴重なご提案を頂きましてありがとうございました。